

会員の声

体が圧倒的に多い中で、なんとなく民間企業を選択しました。

卒論は「新建材の流通について」。福岡克也先生には木材業者の業況ヒアリングに同行をお願いし、澤田和博先生には様々な統計資料等についてご指導いただきました。現場を見ても国産材は厳しく、これから伸びるのは建材や住宅機器と想定。発表会での福岡先生の講評は「建



「海坂藩から50年」

長尾秀司
(昭和47年林学科卒)

横浜市在住

藤沢周平の海坂藩こと鶴岡市。人情あり、歴史の趣あり、そして冬の厳しさもある町で学生時代を過ごしてから50年目にになりました。

当時は、住宅ブームが加熱し新設着工は年間180万戸を突破。マイホーム建築の最盛期を迎える一方、木材輸入の完全自由化により安くて大量に手に入る外材が急増、ついに木材自給率が50%を割った頃でもあります。

林学科では林政学を専攻。あまり学校に行かないバイト学生で、就職先は公務員や農林系団

識と行動力に圧倒され、現在、開店休業中です。水墨画同好会ほかは継続中。「終わつた人」でなく、「始まつた人」を目指しているところに居たのは「敬老祝のお茶」と「高齢者運動講習の通知」でした。

脱炭素やサスティナビリティなど、期待が集まる農学部の一層の飛躍を願っています。



「これまでの人生を振り返つて」

**岩手県花巻市在住
藤原繁**
(昭和48年農芸化学科卒業)

40年余。そんな中、何ヵ所か社有林の取得に携わったことは忘れられない思い出です。

40年余。そんな中、何ヵ所か社

企画部門の立ち上げ、仲介やリフォーム会社の設立、バブル崩壊、リーマンショック時には財務担当など、ハブニングやスリルもある企業部門の立ち上げ、仲介やリフォーム会社の設立、バブル崩壊、リーマンショック時には財務担当など、ハブニングやスリルもある企業部門の立ち上げ、仲介や

アカデミーに入学。シニアむけの園芸や造園の学校です。枯山水のミニ庭園づくりに熱中し、大学の日本庭園論や好物の清酒学も興味深く聽講しました。目指していた森林インストラクターは大苦戦。3回目でようやく全科目合格したものの、先輩会員の知

賢治の故郷の地元花巻市に帰り、盛岡市役所に就職しました。昭和48年4月の新採用から平成22年3月の定年退職までの37年間の勤務で特に思い出があるのは、都市計画・開発許可を担当していた時、大規模開発の不

許可を不服とした行政裁判を

担当したことでした。

最高裁まで争いましたが、そ

の間、建設省や県、顧問弁護士

との協議や判例調査など、初め

て経験することばかりで、苦労

しながら対応でしたが、最高

裁判で「上告棄却」の市勝訴の判

決を聞いたときは、お世話になっ



「鶴岡・庄内の思い出」

加藤雄一
(昭和49年農学科卒)

山形県南陽市在住

私が農学部に入ったのは昭和46年秋市内旧美畑町小林さん方に下宿しました。当時は受験勉強の疲れか、よく風邪をひきました。その時、下宿のおじさん叔母さんから庄内浜での磯釣りを勧められました。道具を準備し、自転車で加茂坂を越え磯釣りを始めました。大した釣果は上げられなかつたのですが、心地よい潮風に吹かれているうちにすっかり海釣りに魅了され以来、地元置賜に戻つても今度は國道113号線を通つて新潟の海に通い続けました。海釣りを続けるうちに、いつの間にかまた、鶴岡の思い出で忘れられることは人生を生きていく方

ができたと思つております。

その後、県職員となつても定年近くまで務める体力面での基盤ができたと思つております。

また、鶴岡の思い出で忘れないのは人生を生きていく方

針が確立できた事です。それは冊の本との出会いでした。鶴岡市内の書店で偶然手にしたある社会活動家を記した一冊の伝記。私は夢中で読むうち、その活動家の生き様にすっかり魅了されました。

それまで私は十代の後半から社会をどのように生きていくのか、一体この世は生きる価値があるのか悩んでいました。その本と出合つたことで何年来の私の悩みが全て吹き飛びました。私の生き方の道標になりました。

この他、学生時代の思い出は仲間との出会いいや将棋やハワイアンとの出会いなど数え切れません。

庄内という私の地元とは違った環境の中で生活するうちに、頭の中がフラットになり本来の力を取り戻せたのかもしれません。

これまで私は十代の後半から社会をどのように生きていくのか、一体この世は生きる価値があるのか悩んでいました。その本と出合つたことで何年来の私の悩みが全て吹き飛びました。私の生き方の道標になりました。

この他、学生時代の思い出は仲間との出会いいや将棋やハワイアンとの出会いなど数え切れません。

庄内という私の地元とは違った環境の中で生活するうちに、頭の中がフラットになり本来の力を取り戻せたのかもしれません。

その後、山形県職員となり、

私が農学部に入ったのは昭和46年秋市内旧美畑町小林さん方に下宿しました。当時は受

験勉強の疲れか、よく風邪をひきました。その時、下宿のおじさん叔母さんから庄内浜での磯釣りを勧められました。道具を準備し、自転車で加茂坂を越え磯釣りを始めました。大した釣果は上げられなかつたのですが、心地よい潮風に吹かれているうちにすっかり海釣りに魅了され以来、地元置賜に戻つても今度は國道113号線を通つて新潟の海に通い続けました。海釣りを続けるうちに、いつの間にかまた、鶴岡の思い出で忘れないのは人生を生きていく方

ができたと思つております。

その後、山形県職員となり、

私が農学部に入ったのは昭和46年秋市内旧美畑町小林さん方に下宿しました。当時は受

験勉強の疲れか、よく風邪をひきました。その時、下宿のおじさん叔母さんから庄内浜での磯釣りを勧められました。道具を準備し、自転車で加茂坂を越え磯釣りを始めました。大した釣果は上げられなかつたのですが、心地よい潮風に吹かれているうちにすっかり海釣りに魅了され以来、地元置賜に戻つても今度は國道113号線を通つて新潟の海に通い続け

